

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

第一回本会議

令和5年5月17日(水)

(議事次第)

議題

1 令和5年度議長団選挙

1-1 議長選挙

1-2 副議長選挙

タイムテーブル

当日の時刻	予定した日程	当初予定
18:30	再開	
18:30~18:37	出欠確認・資料確認	10 分間
18:37~19:16	副議長選挙 1 次決選演説	30 分間
19:06~19:16	投票	15 分間
19:16~19:58	副議長選挙 2 次決選演説	30 分間
19:58~20:09	投票	15 分間
20:09~20:26	その他諸連絡	15 分間
20:26	散会	

出席者

学類等代表者 55 名 詳細省略

資料一覧

- ・ 議事次第

議題

- ・ 令和 5 年度議長団選挙について …P23001-00
 - ・ 学長決定「筑波大学の学生組織について」 …P23001-01
 - ・ 副学長決定「筑波大学における学生の組織及びクラス連絡会等について」 …P23001-02
- ・ 議長選挙演説資料（林 凜太郎 提出） …P23001-03
- ・ 副議長選挙演説資料（江波戸 憧音 提出） …P23001-04
- ・ 副議長選挙演説資料（菊田 一真 提出） …P23001-05
- ・ 副議長選挙演説資料（森 望 提出） …P23001-06
- ・ 令和 5 年度副議長選挙の流れについての提言書 …P23001-07
- ・ 副議長選挙決選演説資料（江波戸 憧音 提出） …P23001-08
- ・ 副議長選挙決選演説資料（菊田 一真 提出） …P23001-09
- ・ 副議長選挙決選演説資料（森 望 提出） …P23001-10

以下、議事録

再開

○河野 美羽（司会進行）

これより、令和 5 年度第一回本会議を再開します。

出欠確認・資料確認

○河野 美羽（司会進行）

出席者を確認します。慣例に基づき、読み上げられた学類に在籍する代表者の挙手を確認することで確認します。

また、円滑な議事進行のため、ご参加の皆様はこの間に随時資料を確認してください。

また、提出が遅れてしまい、申し訳ないのですが、本日の本会議の副議長選挙に関する流れに関する補足資料についても合わせてお確かめください。

点呼は省略。

○河野 美羽（司会進行）

学類等代表者の出席者は 55 名です。本会議の定足数を満たしたことを確認しました。

○河野 美羽（司会進行）

議事の進行の前に『令和 5 年度副議長選挙の流れについての提言書』についてご説明します。

決選投票に関しましては、得票数の多かった者が選出されようとするときに、学類等代表の過半数の得票がなければならないという規則がないという指摘がありました。従いまして、得票数の多かった者について、その得票数が過半数であるかを問わず選出されるものと解釈して進行するべきであるという点について、副議長候補 3 名の連名での提言がありました。

これに関しまして、諸規則に照らして確認したところ、問題がないと判断を致しましたため、本日はそのように進行いたします。

これについて、異議のある方は挙手をお願いします。

○河野 美羽（司会進行）

異議なしと認めます。

議題

○河野 美羽（司会進行）

議事に移ります。前会に続き議長団選挙を執行します。

○河野 美羽（司会進行）

『令和 5 年度議長団選挙について』に基づき、得票上位 2 名だった菊田候補、江波戸候補に再度の演説を求め、決選投票を行います。

江波戸 憧音、菊田 一真は資料をプロジェクターで前方に投影させ、適宜参照しながら演説を始める。

以下、補足しながら要旨を示す。演説に使われた資料は P23001-08、P23001-09 に提示する。

○菊田 一真（情報科学類）

お待たせいたしました。改めましてこんにちは。先週に引き続き副議長に立候補させていただいた菊田と申します。立候補の演説を引き続き行わせていただきます。

本日の演説の方では、自己紹介と目指す方向性、それからこれまでとこれからの活動についてお話しさせていただきます。

○菊田 一真（情報科学類）

まずは軽く自己紹介をさせていただきます。

菊田と申します。総務委員会と情報処理推進特別委員会、企画・戦略特別委員会に所属しておりまして、それぞれ総務委員会では 2020 年度の情報部門長、情報処理推進特別委員会の方でも去年の委員長を務めておりました。そしてクラス代表者会議の方では、情報科学類の副議長を務めさせていただいております。

○菊田 一真（情報科学類）

それを踏まえ、今までの活動を少し振り返らせていただきます。

新しい活動といった観点ですと、これまでも今までに無かった新しい活動の方を行ってまいりました。IPC（情報処理推進特別委員会の略）の設置も挙げられますし、その中でも UNTIL.LT(情報系技術者技術者を中心としたトークイベント)や NTT 東日本のとう道見学会といったイベントも新しく企画し実行して参りました。

IPC が企画するイベントというものは非常に珍しく、そのうえ企業見学といった学外との連携により行われる物は更に珍しい、と全く新しい活動を実現して来ました。

○菊田 一真（情報科学類）

また知識や情報を活かすといった観点からは、規約や制度といったいわゆる規約文を読

み書きすることに長けているので、その点から学生組織に関する規約の改正なども行ってまいりました。また会計に関する知識もあるので、それを活用し全代会の会計に関する規約を一から作るなども行いました。

○菊田 一真（情報科学類）

次にこれらを踏まえ、これから何をしていきたいかということに関して述べていきます。目指す方向性に関して先ほど述べさせていただいたのですが、具体的には既存のものを改善していくという形で、ある種新しい活動でもあり知識を活かせる、全代会の規約改正。

それから新しい活動としましては、会計制度や情報基盤の整備など、新しく私の知識を活かした独特な方針になります。

それから「目指す方向性」の 4 つ目の「実働部隊のリーダー」という点に関連しましては、実働部隊の見直しなども行っていきます。

○菊田 一真（情報科学類）

情報基盤の整備に関しまして、筑波大学の大学側が ICT をもっと積極的に使用していきたいとの姿勢を示しており、学生が関与するものに関しても、ICT の利用をより推進していきたいと考えています。しかし大学には予算があまりなく手が回らないため、課外活動などに関する部分については自分たちでやっていきたいという方針です。

○菊田 一真（情報科学類）

次に実働部隊の見直しという点に関しましてご説明いたします。例えば「執行部を作りたい」という意見があるのですが、全代会の意思決定は「委員長連絡会」という各委員会の委員長・副委員長のみで集まる会議で行われます。しかし本来委員長の仕事というのは各委員会の運営であって、委員長になった瞬間に全代会の事に関しても決めていくのは荷が重く、難しいことです。

そこで全代会の運営そのものを扱う部署、つまり実働部隊を作成し、委員長などになっていないが全代会の全体に関わる仕事に興味がある人々を募る組織を作り活動したいと考えています。

○菊田 一真（情報科学類）

最後にまとめになります。私は規約の改正や会計・情報の基盤の整備といった新しい活動や、実働部隊のリーダーとして、先程述べた様な組織を作るような活動を行っていきます。私の演説は以上となります。ご清聴ありがとうございました。

○江波戸 憧音（情報メディア創成学類）

それでは副議長選挙の立候補演説の方を始めさせていただきます。先週と同じような内容となると思いますが、ご清聴頂けると幸いです。

○江波戸 憧音（情報メディア創成学類）

先週演説した内容からの追加点からお話しさせていただきます。先週の内容に加え、目次の 4 番に書かれている「これからに加えて」という内容に関しても述べさせていただきます。

す。本日はその内容を重点的にお話ししていきます。

○江波戸 懂音（情報メディア創成学類）

自己紹介は先週と変わっておりません。情報メディア創成学類の3年次です。広報委員会に継続して所属してきました。広報委員会では昨年度の委員長、また昨年10月からは制作部長を務めてまいりました。

○江波戸 懂音（情報メディア創成学類）

広報委員会に在籍している間に何をしてきたかについてですが、全大会の制作物の制作に携わってきました。

広報委員会というものはある種全大会の最前線とも呼べる部署で、その中で半年間制作部長として務めてきた私が掲げる全大会のこれからについてお話しします。

○江波戸 懂音（情報メディア創成学類）

私が掲げるのは全大会の新時代というもので、これが何なのかご説明させていただくと、これまで以上の広報と、これまで以上の全大会。在籍する一人一人が行った活動がそのまま全大会の広報と直結していくという話です。これも抽象的でよく分からないとは思いますが、具体的に説明していきます。

1つ目は副議長として議長を支えていくということです。これは先ほど述べた内容とは少し関連が薄れますが、組織のリーダーが当たり前にやるべきことです。

2つ目は、学生組織の関係を精査することです。学生組織の活動の目的や役割があやふやだと全大会はどういう立ち位置で何をしていたら良いのかがあやふやになり、活動もしにくくなります。そこでより活動をしやすくするため、学生組織の関係を精査していこうと考えています。実際に私は今も新入生歓迎行事推進委員会という団体の精査をやらせていただいております。

3つ目としましては、これまでの全大会を精査しこれからの活動につなげるということで、全大会はあと2、3年で50周年を迎える組織であり、それに向けて記念誌などを作る方針です。実際に30周年の際にも記念誌が作られていたようで、そこからの20年間全大会が何をしてきたのかというのが後世に分かりやすく伝わる記録といった側面に注力していきたいと考えています。またCampusという広報誌が現在No.229まで発行されているのですが、過去の200号分をウェブ上で閲覧できるようにしたいと考えています。

このように全大会がこれまでどんな活動をしてきたのかを明確にすることで、これからの活動につなげ、反省点などを踏まえより良い組織にしていくことができます。

○江波戸 懂音（情報メディア創成学類）

自分の長所としましては、広報力とバイタリティだと先週述べさせていただきました。それに加え、「いいな」と思ったことに関して周りの意見を聞きつつ一意専心で取り組めることも長所です。ここまでをまとめまして、議長だけでなく各委員会の委員長もサポートしていける副議長になっていきます。

○江波戸 懂音（情報メディア創成学類）

ここまでが先週お話しした内容になります。ここからは追加の内容についてお話しさせていただきます。

さて、「さあ！大学の未来を共に。」という全大会のキャッチコピー。こちら、もう飽きるほど見たという方もいらっしゃると思いますが、こちらは今年度の新歓に向けて私が作らせていただいたキャッチコピーで、今年度の新歓に関しては私が制作部長として一任されておりました。ここからまた新たに全大会を頑張っていきたいなという思いを込め、認知向上のためにもロゴなども一新してジャンパーやクリアファイルなどのグッズも作って参りました。

そういった点から、「広報とはどれくらい重要なのか」という点についてお話しをしようと思います。

○江波戸 憧音（情報メディア創成学類）

私の考えとしては、広報は普通の活動と同じくらいの重要性を持っています。中学の授業などで「普段の授業も大切だが予習復習も同じくらい大切だ」という言葉を耳にしたことがあると思いますが、それと同じで、広報も予習復習と同様に大切です。

また適切な予習復習が大切なように適切な広報も重要であり、制作部長として、広報委員会としてこれまで頑張ってきた経験を用いて、副議長となり全体の広報を活発化させていきたいと考えています。

また「適切な広報を行うことで全学に気が付いてもらえる」と書きましたが、その結果、全学から自然と学生の声が返ってくるようになります。

そのため、全学と「大学の未来を共に」することができるようになり、学生組織として大学の運営をより良いものにしていくことができるようになります。

○江波戸 憧音（情報メディア創成学類）

「大学の未来を共に歩んでいける」副議長候補の方を、自らの意思で選んでいただけると幸いです。

ご清聴ありがとうございました。

○河野 美羽（司会進行）

ありがとうございました。

○河野 美羽（司会進行）

質疑応答に移ります。

○川島 淳一郎（総務委員会）

総務委員長からお知らせいたします。投票用紙が手元にない方がいらっしゃいますので、これより投票用紙を配布いたします。総務委員会の方は前方にお願いします。

投票用紙が配布される。

○川島 淳一郎（総務委員会）

進行を乱してしまい、失礼いたしました。

○河野 美羽（司会進行）

それでは、質疑応答に移りますが、3点注意点がございます。

1点目です。質疑を求める際には挙手をしてください。係がマイクをお渡しし、発言を許可します。その際には、お名前と合わせて学類、学年をお知らせください。

2点目です。議事次第に従い、質疑は19時15分までとします。

3点目です。最後の応答から1分の間挙手がない場合、質疑応答を終了します。

○河野 美羽（司会進行）

それでは質疑を求める方は挙手をしてください。

以下、質疑の許可にまつわる手続きは省略。

○梅基 結（地球学類）

全学に対する広報について適切な広報を行うとありましたが、適切な広報について具体的に説明をお願いします。

○江波戸 憧音（情報メディア創成学類）

演説で述べた適切な広報というのは、適切な方法での広報という面もありますが、何よりも情報が正しいという点と、情報が結果的に正しくなったのではなく、正しいと確定した時点で素早く広報をする必要があるという点を指しています。

そのような意味で適切な広報という言葉を用いました。

○梅基 結（地球学類）

適切な広報を行うことによって、ちゃんと声が返ってくるという点を鑑みると、全学に対する広報が主だったと思いますが、前回のお話の中で全代会組織内部における広報、委員会同士の仕事内容の周知にも言及があったかと思います。

その言及についての考えをお教えてください。

○江波戸 憧音（情報メディア創成学類）

全代会内部に向けての広報は全代会外部に対する広報に内包されているものであると考えています。

全代会内部に向けてはより詳細なものを広報が可能であるため、詳細な部分は情報共有

を行う必要はありますが、全代会構成員も筑波大学の一員です。

そこで、同様の内容で内部に広報を行う事で一学生として客観的に全代会を見る事が可能であり、また内容について目に留まる点があった際に広報委員会、ないしは広報内容に関わる委員会に問い合わせを行うことで、全代会内部で交流を深めることや、全代会に関する知識も深めることが可能であると考えています。

○近藤 拓未（情報科学類）

菊田さんにお伺いします。

執行部のようなものを作る理由について改めてお聞かせください。

○菊田 一真（情報科学類）

現在、研修会等の全代会全体に関わる事は、議長団や委員長を中心に行っています。しかしながら、委員長は研修会等の準備を行う時期は引継ぎをしたばかりであるため、自身の委員会を今後どのように組織していくのかについて考える非常に重要な時期です。したがって、委員会についても考える必要もあれば、全代会についても考える必要があります。加えて、研修会のようなものであれば準備をする必要もあります。

つまり、やる事が多すぎるため、委員長だけでは賄うことが困難であると考えています。故に、委員長という枠にとらわれず、全代会の活動、委員会に囚われない活動に参加をして欲しいと考え、そのような枠組みを作るべきだと考えました。

○近藤 拓未（情報科学類）

つまり、委員長連絡会とは別に全代会を運営する団体を作るというニュアンスで正しいでしょうか。

○菊田 一真（情報科学類）

活動の形態はいくつか考えられますが、その1つとして委員長連絡会に参加する人を増やすということが挙げられます。

しかし、委員長連絡会は数が少ないからこそ決まるという内容もいくつかあるため、いずれプロジェクトリーダーのような枠組みが出来たら、プロジェクトリーダーが委員長連絡会に参加するという形態も良いのではないかと考えています。

あるいは、完全に切り分けて委員長連絡会で考えたことを伝達し、トップダウン式で行うという事になるかもしれません。

要するに、プロジェクトごとに必ずしも執行部という枠組みを取る必要はなく、形態についてはプロジェクトごとで考えていければ良いと考えています。

○野島 匠史（国際総合学類）

菊田さんにお伺いします。

会計の知識があるとおっしゃっていましたが、例えば持っている資格や過去の経験、どのような知識があるのかについて教えてください。

また、会計は様々な種類がある中で、菊田さんの持っている知識と全大会の会計、大学の会計の方式は一致しているのかということと合わせてお教えてください。

○菊田 一真（情報科学類）

まず、資格は持ってはおりません。しかし、過去に日商簿記 3 級の勉強を行ったことがあります。また、私事ではありますが、一般社団法人の代表理事を務めているため、一般社団法人の会計業務として日常の仕訳作業を始めとした実務を行っていることや、それに伴った知識を持っています。

このような知識を全大会の会計にどのように活かせるかという点について、そもそも学生団体に求められている会計というのは企業と比べれば簡略的であり、また枠組みを作成するにあたっては説明できるくらい詳しい必要があると考えています。

したがって、ある種会計について抽象的に知識を得ているからこそ、枠組みを作成し、新たな枠組みを作成するにあたって対象者に会計をどのように行うのかについて教えることが可能になるという点で、自身の知識は全大会の会計業務に活かせると思います。

○岡本 翔太（総合学域群）

菊田さんにお伺いします。

会計の担当について、執行部のような方が担当するのか、あるいは会計について新しい組織を作成するのかについて教えてください。

○菊田 一真（情報科学類）

昨年度の本会議にて全大会に会計をおくという規則を規定しました。

そちらの方で全大会の一般会計における会計責任者は総務委員長が務めると規定しています。実運用としては、総務委員長の委任の元で、総務委員が行います。

ですから、総務委員会を兼任している自分が会計業務に従事出来れば良いと考えていますし、副議長として新たな会計の枠組みを作成した上でも総務委員会という立場を活かしてスムーズに連携を行えると考えています。

○浅野 宏太（社会工学類）

江波戸さん、菊田さんの 2 名に質問です。

お二人がやりたいと言っていたような様々な業務を、全大会の 1 年生が面白いと思えるにはどのようにするべきでしょうか。

このことは先日、議長に選ばれた林さんが「全大会構成員の皆に全大会に貢献できたとい

う実感を持ってもらう」と仰っていたため、どのようにしたら副議長として掲げたアジェンダに貢献できたと思ってもらえるか、また、どのようにして楽しい、やってみたいと思ってもらえるのかという点についてお聞きしたいです。

○菊田 一真（情報科学類）

どのようにしたら楽しいと思ってもらえるか、あるいは興味を持ってもらえるかという点については、個人によって異なるため一概には言えませんが、枠組みとして広く募っているという形を作成することが重要であると考えています。

委員長連絡会や、特定の委員会がやっているような印象が強いと、当事者としての意識が付きづらいことや、参加するためのハードルが高く感じてしまうと思います。

この点に関する解決策として、例えば、昨年度 Teams のチャンネルの採番を見直した際に、プロジェクトごとにチャンネルを作成するという枠組みを作成しました。現在だと Teams の 400 番台を見てもめるとプロジェクト単位でチャンネルが作成されています。

このようなことを行うことによってどの委員会が、という事ではなく全代会全体ないしは、委員会に対して横断的にやっているという認識を持たせることで、自身のやりたいと思った活動に参加しやすい、興味をもったら参加ができる、興味をもったからこそやりがいができる、あるいは達成感が生まれるというような形になると考えています。

○江波戸 憧音（情報メディア創成学類）

全代会の活動に意欲をもって参加してもらうためにはどのようにすれば良いかという問いとして解釈をし、回答を致します。

この点については、広報という観点が重要となってくると考えています。

なぜなら、適切に広報が行われることによって全学に全代会がどのようなことをしているかや、全代会はこのようなことに役に立っているということが明確になり、それに対して自身の活動がこういう事に役に立ったのだという自覚が生まれることで、活動に対する達成感が得られると考えているためです。

以上のように、人を意欲的にするという意味で広報という観点は重要であると考えます。

○河野 美羽（司会進行）

時間となりましたので質疑応答はこれまでといたします。

学長決定「筑波大学の学生組織について」（「学長決定」）の議長団選挙に必要な、学類等代表の 3 分の 2 の本人出席を確認した。

○河野 美羽（司会進行）

投票の手続きについて、副議長代理の川島よりお話しします。

○川島 淳一郎（司会進行）

決選投票が行われます。お手元の投票用紙から所定の投票用紙を使って投票をしてください。候補者欄に、最も適格と思われる候補者 1 名の氏名を記載してください。候補者の氏名は正面の黒板、および Teams の記載を参照してください。

続けてオンラインでの参加者にお知らせします。本会議チャンネルに投票フォームを掲載しましたので、そちらの方で投票をお願いいたします。投票者の名前は記録しないように設定しておりますので、匿名投票が保証されています。

○河野 美羽（司会進行）

19 時 20 分になりましたら投票用紙を回収いたします。それまでに記載を終えてください。

○川島 淳一郎（司会進行）

投票用紙を回収します。

投票用紙が回収される。

○河野 美羽（司会進行）

開票を行います。

開票される。途中経過は省略。

○河野 美羽（司会進行）

開票の結果、江波戸候補 29 票、菊田候補 26 票となりました。

よって、江波戸候補は全代会副議長として選出されました。

○河野 美羽（司会進行）

続いて、『令和 5 年度議長団選挙について』に基づき、菊田候補、森候補に再度の演説を求め、決選投票を行います。

菊田 一真、森 望は資料をプロジェクターで前方に投影させ、適宜参照しながら演説を始める。

資料はそれぞれ P23001-05, P23001-10 を参照。

以下、補足しながら演説を示す。

○森 望（社会学類）

皆さん、こんばんは。森です。もう一度お時間をいただいて、私から話をさせていただきたいと思います。

本日は、先週お話ししたことをもとにして、改めて私が副議長に立候補する理由を3点述べさせていただきます。

先週は、私が令和4年度の全代会副議長であったこと、そしてその経験を通して、議長、副議長に求められる知識や、任期の中で感じたことによってお話しさせていただきました。

先週話したと少し重なるかもしれませんが、私が副議長に立候補する理由は3点あります。1点目は私が2期連続の副議長としてその経験に基づいて議長の方針を支えたいという点。2点目は、すべての委員会に所属することができないながらも、私はすべての委員会の活動を盛り上げていきたいという点、そして3点目は、私は全代会の代表である議長団として、学生と学生組織、それから大学の3方向を見ていけるようにしたいという点です。この3点を理由に挙げさせていただきます。

○森 望（社会学類）

一つずつお話しします。経験に基づいて議長の方針を支えたいということについてです。先週議長がお話ししていた方針を私なりにまとめると、「適材適所」という言葉が当てはまると思います。

その方針を達成するに向けて、私が昨年全代会副議長として得た経験を林先輩と共有しながら様々なことをしていきたいと考えています。後述しますほかの2点についても、林議長を支えることを前提としています。

○森 望（社会学類）

2つ目の理由として挙げた、すべての委員会を盛り上げたいという点です。

私は、昨年度の内から、今年度の委員長に内定していた委員長の方々と、今年度の活動についての方針について早いうちから打ち合わせ、確認する「プレ・委員長連絡会」という集まりを開催してきました。

それぞれの委員会について、少しずつお話ししていきます。

総務委員会では、これまで議長団が行っていた庶務的な活動、つまり、議長団でなくてもできるような内容を総務委員会に割り振ることで買う銅の活性化につながっていると思います。例を挙げますと、昨年度までは副議長が行っていた、質問者へのマイク移動のような、一部の会議進行については、総務委員会に役割を移動させました。

次に、学内行事委員会についてです。学内行事委員会は、全代会以外の学生組織との連携が業務の軸となっていますが、その連携をさらに強化できると考えております。例えば、一般学生団体のような、大学から公認を得ている団体でありながら（系別責

任者会議を通して）学内行事委員会と連携が取れていないタイプの団体があります。今までは学生生活課を経由して連絡をしていましたが、直接連携をとることで、（新歓祭などの）サークル活動の改善につなげていきます。

また、教育環境委員会、生活環境委員会、調査委員会の３つの委員会については、性質が似ていて、活動の中でも連携することが今までも非常に多かったのですが、この三つの委員会で共通して言えることは、議論に必要な情報、特に大学に関する情報というものが必要になるので、各委員会が要望する情報をミーティングなどに参加することで早く、そして正確に把握して、私たちが代表として教職員から事実確認ができた情報を素早く共有することを心掛けます。

また、広報委員会について、先ほどもほかの委員会と同等に重要であるというお話でしたが、広報委員会はほかの委員会の活動が活発になることで広報できる内容に広がりができると考えているので、ほかの委員会の活動活性化を通じて支援していきたいと考えています。

最後に、特別委員会についてですが、独立性の高い活動をしている組織が多く、その点で議長団が介入できることは少ないです。しかし、常任委員会として登録している人が新たに特別委員会でも活躍したいと考えているときに、ミーティング日が重複しているために参加できないという場合もあります。そこで、ミーティングに参加できなくても仕事が分担できるような方法を特別委員会の委員長の方々と考えていきます。

○森 望（社会学類）

最後に学生、学生組織、大学の３方向を見たいということについてです。広報委員会の方々が考えられた、「さあ！大学の未来を共に。」というスローガンについて、広報委員会の中で独自のイメージがあって作られたものだと思いますが、私の解釈としては学生と教職員が共に、大学の未来を創るというものだと思います。そして全代会はあくまで学生の代表であるものだと考えています。大学にはもちろん学生が所属していますが、教職員の方々がいて、大学を運営しています。そのため、「これを直してほしい」、「あれを増やしてほしい」と一方的に要求しては、（筑波大学には限られたリソースしかないことを踏まえると）全てを叶えるのは事実上不可能です。

学生の利益を最大にする方法を模索しながら、そのために教職員の方々には大学の情報をより多く全代会や学生に提供していただくように話ししていこうと考えております。それが先週お話しした意見交換会の増設という話に繋がっております。

そして、学生や学生組織の方も向くというお話もします。全代会以外にも学生組織がたくさんあるというのは先週からお話ししていますが、そういった学生組織の意見というものを全代会が中心となって集約していければ、組織間の連携を推進できるのではないかと考えます。例としては企画・戦略特別委員会が、説明会などで挙げていた新歓祭の体制の見直しについては、（新入生歓迎祭推進委員会）だけでなくほかの学生組織との連携が必要だと考えています。ですから、（企画・戦略特別委員会）のみならず学内行事委員会と

も連携していくものだと考えています。さらに、施設の故障、不備といった、学内行事委員会だけで解決できない事案は生活環境委員会など、さらにほかの委員会にも波及していきます。

それから、クラス代表者会議の活性化についても考えています。

これは、すでに活発な活動をしているクラス代表者会議もあるのですが、そうでない学類もあります。一方で、学类等代表の方々だけで収集できる情報量というのも限りがあります。そこで、クラス代表者会議と連携することで、クラスや学類で収集した情報を、必要に応じて全代会に届けられる体制を作っていきたいです。

○森 望（社会学類）

改めて申し上げますと、私は所属できなくとも全ての委員会の活動を盛り上げていきたいです。そして私はもう一年以上副議長を続けさせていただいて、その経験を求めて議長の方針を支えていきたいです。そして全代会の代表として、学生と学生組織、大学の3方向に向き合っている。そんな議長団にしていきたいと考えております。

演説は以上です。ありがとうございました。

○菊田 一真（情報科学類）

私は、既にお話しさせていただいていますので、先ほど割愛しました先週の内容からいくつか抜き出してお話いたします。

改めまして、菊田と申します。自己紹介は省略いたします。

菊田 一真は、P23001-05 の 18 ページから 21 ページを投影する。

○菊田 一真（情報科学類）

先ほどは省略していた、それぞれの公約の背景をお話しします。

はじめに、今の会計制度と、その刷新によって何をやるかというお話です。今の体制は、学生生活課に「こういうものを買って、使わせてください」と頼む、物品の購入依頼、借用依頼しかできません。それを、物品だけでなく、例えば有料フォントの契約や、全代会ジャケットを総務委員会が手洗いしているのをやめて、クリーニングを依頼するといったように、単なる物品ではなく、活動そのものと連動するサービスを購入できるようにするために、新しい会計の枠組みを整備しているところです。

○菊田 一真（情報科学類）

また、情報に関する活動をあえて副議長の立場から推進したい理由についてもお話しします。

「情報システムを作る」という行為自体は簡単なのですが、新たに作ったものは課外活動団体の方々にも使っていただきたい（多岐にわたる組織と関わりながら情報システムを整備したい）という点があります。

ところで、課外活動団体は、全代会においては学内行事委員会の系別責任者会議担当の方が担当されています。

一方で、作ったシステムで言うと、全代会の名簿管理システムは全代会全体、とりわけ総務委員会が使うものです。

作ったシステムを使っていただく、あるいはそのシステムの運用についてやり取りするためには、ほかの委員会や、外部の団体とお話をする場面が多くなります。ですから、副議長の立場から、外部団体とのやり取りや、全代会の各委員会との共同作業を主導していただけるからです。

○菊田 一真（情報科学類）

さらに、大学院生との関係についても先週お話しした通り、考えを深めていきたいです。

○菊田 一真（情報科学類）

スライドに無い情報を引き続きお話しします。

「執行部隊、あるいは実行部隊のリーダーになる」というお話を先週いたしました、
「各委員会をまとめて見る立場でいたい」という意味も込めています。

総務委員会では委員のグループ分けを見直して、活動の幅を広げていきたいと伺っています。森さんもおっしゃっていたように、従来議長団が行っていた庶務をできるだけ総務委員会で担当することにより、総務委員会の活動を広げています。それによって総務委員会のやりがいの確保、委員長、議長団の負担軽減を目指しています。

また、学内行事委員会については先にお話しした内容と重複しますが、課外活動団体との連携を強化していきたいです。現状は、（系別責任者会議に参加する）各サークル連合会、体育会と全代会は横並びの関係で、サークルは全代会の下部組織ではありません。さらに、一般学生団体は（サークル連合会に類する組織が存在しないなど）、ほかのサークルとは異なる体制になっていて組織形態が混雑しています。ですから同様に混乱がみられる新入生歓迎会の管理体制と合わせて、江波戸さんがおっしゃっていたような組織体制の見直しを学内行事委員会と連携して進め、サークルの意見集約の今後を考えながら、その中で情報システムを役立てることを目指します。

教育環境委員会に関連する課題としては、編入生への対応が手薄な点があります。3年次編入生へのオリエンテーションについて今後は取り組んでいただきたいです。また、教職課程に関する問題が存在することもお聞きしていますので、そういうところに取り組んでいただきたいです。そのうえで、ただ課題を委員会に提示するだけでなく、進行状況についても耳を傾けていきます。

生活環境委員会については、今年度から対面授業が増え、人流が増えたことでいくつか対処すべき問題が顕在化しています。私のよく利用する第3エリアを例に挙げると、「粉とクリーム」が大変混雑していて、学生食堂でご飯を満足に食べられない状況になっています。過去にはあった第3エリア食堂は閉鎖されたままですから、食堂の不足から「昼食

難民」が発生している状況です。こうした学生・職員の福利厚生関係に取り組んでいただきたいです。

さらに、保健管理センター、CEGLOC 付近を筆頭に、通路に駐輪される自転車が多くなっています。これも対面授業が増えたことによって顕在化した問題なので、こうした問題について重点的に取り組んでいただきたいです。

調査委員会に関しましては、従来から調査方法としてアンケートを多く活用していたのですが、アンケートだけでなく、実地調査などを含めた、広がりある活動をしていただきたいです。

広報委員会に関しましては、「餅は餅屋」だと思っていますので、そこはすでに選出されている江波戸さんや、広報委員長の篠崎さんたちにお任せしていきます。

大まかに各委員会の話をさせていただきましたが、こうして各委員会を統括して見守っていきます。ただ傍観するだけでなく、しっかり現場に通って交流をします。

○菊田 一真（情報科学類）

資料がなかった点は申し訳ありませんでした。

以上になります。ご清聴ありがとうございました。

○河野 美羽（司会進行）

ありがとうございました。

質疑応答に入ります。予定より早く時間が進んでおりますので、20 時まで質疑応答を行うこととします。先ほどと同様に質疑応答を進めます。

それでは質疑を求める方は挙手をしてください。

以下、質疑の許可にまつわる手続きは省略。

○浅野 宏太（社会工学類）

再度、お2人にお伺いします。

菊田さんにおいては重複しますが改めてお答えください。

現在、ここに座っている全代会構成員の凡そ3分の2が1年生であり、クラス代表者会議議長になった方でも一部新任の方がいらっしゃるため、これまで1年間全代会が何をしてきたか、あるいは今後1年間全代会がどのようなようになっていくかがいらっしゃいます。そこで、誰もが全代会に入って良かったと思ってもらうのは難しいかもしれませんが、なるべく多くの人に全代会に入って良かったと思ってもらえるような組織になるためにはどのようにすれば良いと思いますか。

恐らくこの点が林さんの求める事だと思いますので、この点对する方策をお聞きしたいです。

○森 望（社会学類）

大学への要求に対する活動を実現することが大切であると考えています。

様々な活動を実現していくことで、それが達成感に繋がると思います。したがって、様々な活動を実現することが全代会に入った方々のモチベーションになると考えています。

○菊田 一真（情報科学類）

やりたいと思ったことをやることのできる環境を作るのが良いと考えています。

言葉を選ばずに申し上げると、全代会をやりたくないと思っている人にやっていて楽しいという意識を持ってもらうということは、勿論あり得ない話ではありませんが、それを誘導するのは容易ではないと考えています。

故に、私は元々やってみたいものがある人に着目をしたいと考えています。

そちらが執行部のような、やりたい人が関われるような枠組み作りに繋がります。

やりたいことがあれば議長団等に提案し、提案した後に自分自身が主導して活動を行うことも良いと思いますし、必ずしも主導をせずとも良いと思います。

大切であるのは、自分の提案したことが全代会や大学を動かすという面を作ることであると考えています。

○浅野 宏太（社会工学類）

ありがとうございます。

お2人とも学生の代表として諸問題に取り組むという間口をとっておくことで、やりがいを見つけて頂く、良かったと思ってもらえるようにするものと理解をしました。

○堂口 遥加（障害科学類）

新副議長に選ばれた江波戸さんと、どのように連携をしたいのかということについて、考えがあれば可能な限り具体的にお教えください。

○森 望（社会学類）

役割分担をしっかりと行っていきたいと考えています。

私としては、どのように全学にアプローチしていくか、すなわち広報の手段について見識がありません。

そのため、広報については江波戸さんを中心に活動をして頂き、私は江波戸さん不得手である業務のフォローをしていきたいと思っています。

○菊田 一真（情報科学類）

私はできることはできる人に任せたいと考えています。

この点から江波戸さんが広報について秀でている一方で、私は広報面について不得手であるため、広報は江波戸さんをお願いしたいと考えています。

先程、演説にて江波戸さんが話していた中で、学生組織同士の関係性の明確化や整理を挙げていたと思いますが、その点については私も同じような問題意識を持っています。

この問題点について、議長団同士のみではなく、全代会全体や委員長連絡会等と相談をしながら決定をしいきたいと考えています。その話し合いの中で決定された制度で定められた大まかな関係性を具体的な文章として落とし込む、すなわち制度を文章化することを私が行いたいと考えています。

以上のように、互いに自身ができることを行う事で、役割分担ができるのではないかと考えています。

○野島 匠史（国際総合学類）

お二人の公約は非常に魅力的に感じました。

ただ、お 2 人のうちいずれかしか副議長になれないという事ですので、お互いに自身が掲げていないが、もう一方の掲げていた公約において魅力的なもの、あるいは実現したいものがあれば教えてください。

○森 望（社会学類）

一言でいうと全て素晴らしいと思います。

というのも、昨年度より会計制度を設けること、組織の制度を見直しや執行部制度などの様々な面で菊田さんとやり取りをして共感していました。

菊田さんが落選した場合においても、菊田さんが公約として掲げていたことを実現するために、協力を仰ぎながらにはなるかと思いますが、尽力をしたいと思います。

○菊田 一真（情報科学類）

同じ方向性を向いているものとしては、色々な委員会を見ているという点があります。私も全ての委員会に参加することは難しいですが、色々な委員会に関わるという方針についてはやっていきたいと考えています。

また、クラス代表者会議への連絡についても、昨年度の規約改正によって、今この場には原則クラス代表者会議の議長と副議長が来られているかと思いますが、全代会内の連絡周りについては力を入れていきたいなと思います。

いずれにしても、森さんを頼ることはあるでしょうし、連絡周りという点では森さんはよく気付くという点で秀でていると思いますので、その点については一緒に活動をしていく、場合によって協力を仰ぐというような形を取っていききたいと思っています。

○河野 美羽（司会進行）

最後の応答から 1 分の間挙手がありませんでした。これ以上の質疑の求めはないものと認め、質疑応答はこれまでといたします。

○河野 美羽（司会進行）

投票の手続きについて、副議長代理の川島よりお話しします。

○川島 淳一郎（司会進行）

決選投票が行われます。お手元の投票用紙から所定の投票用紙を使って投票をしてください。候補者欄に、最も適格と思われる候補者 1 名の氏名を記載してください。候補者の氏名は正面の黒板、および Teams の記載を参照してください。

続けてオンラインでの参加者にお知らせします。本会議チャンネルに投票フォームを掲載しましたので、そちらの方で投票をお願いいたします。投票者の名前は記録しないように設定しておりますので、匿名投票が保証されています。

○河野 美羽（司会進行）

続けてオンラインでの参加者にお知らせします。本会議チャンネルに投票フォームを掲載しましたので、そちらの方で投票をお願いいたします。候補者 1 名をお選びください。

○川島 淳一郎（司会進行）

予定より早く記入がお済みであるように見受けられますので、投票用紙を回収します。

投票用紙が回収される。

○河野 美羽（司会進行）

開票を行います。

開票される。途中経過は省略。

○河野 美羽（司会進行）

開票の結果、菊田候補が 37 票、森候補が 17 票となりました。

よって、江波戸候補は全代会副議長として選出されました。

○河野 美羽（司会進行）

以上で、令和 5 年度議長団選挙は終了いたします。

選出されました議長団よりご挨拶をいただきます。

○林 凜太郎（議長）

議長に選出されました林 凜太郎です。これまでの議長団は2年生が選任されることが通例である中、3年生、3年生、4年生と「高齢化」が進んだ本年度の議長団ですが、ぜひ、一緒に頑張れたらと思います。1年間、よろしくお願いいたします。

○菊田 一真（副議長）

私は4年生であるということもあり、できるだけ皆さん主体の全代会に私が加わっていくような形にできるようにしたいです。皆さまが頑張っていて、やりがいを持って活動できるように、私は基盤を整備したり、タスクの割り振りを管理したりしたいと思っておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

○江波戸 憧音（副議長）

広報する上での皆さまがどう精力的に活動していただくことは、本当に全代会の広報という面にもつながりますので、やっぱり皆さん頑張っていていただけると組織としても、より活発な組織になることができます。

全代会を、この夏よりも熱い、活発な組織にしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○河野 美羽（司会進行）

その他諸連絡に移りたいと思います。はじめに、各委員長から委員会活動の報告をしていただきます。

委員会活動の報告というのは、各会議の間にどのような活動をしていたのかを全体に向けて報告する場面になっております。

委員会活動の報告が終わりましたら、それ以外の方々から連絡事項・報告事項をいただくことになっております。

○河野 美羽（司会進行）

それでは、総務委員会から順にお願いします。

○河野 美羽（司会進行）

それでは、以上で議長団選挙の方を終了といたします。

改めまして、令和5年度の議長団に選出されました方々から挨拶をいただきたいと思います。

○林 凜太郎（社会工学類）

議長として選出していただきました林の方からご挨拶をさせていただきます。

今までの議長団は全員2年生だったのですが、今年は3年・3年・4年と「高齢化」が進

んでおりますけれども、一緒に頑張っていけたらなと思っています。今年一年間よろしくお願ひします。

○菊田 一真（情報科学類）

4年生という面もあるので、皆さんと一緒に、皆さんがメインとしてやりがいを持って活動ができるように基盤を整備する活動に努めていきたいなと思っておりますのでご協力よろしくお願ひします。

○江波戸 憧音（情報メディア創成学類）

ご信任いただきありがとうございます。

やはり広報をする上でも皆さまが精力的に活動をして下さることが非常に重要ですので、皆さん頑張っただけだと組織としてもより活発になっていきます。全代会をこの夏よりも熱いような、より活発的な組織にしていきたいと思います。よろしくお願ひします。

○川島 淳一郎（総務委員会）

総務委員会では新入生に委員会の紹介や現在のプロジェクトの説明を行い、また新入生の配属を行いました。

その他では、議事録のフォーマットの再定義などを行っています。

また、会場の皆さんにこの場を借りてご連絡します。総務委員会では esa（全代会が採用している文書管理ツール）のアカウント管理をしており、新入生の方からの新規アカウントの申請を受け付けております。お済でない方は、Teams 上で共有をしています申請フォームから申請をお願いします。

○川島 淳一郎（総務委員会）

また、各委員会に年2回の掃除依頼をします。総務委員会と一緒に掃除をしていただきます。この件に関してはまた後日ご連絡をさせていただきます。

そして、Wi-Fi や部屋のパスワードの再設定を情報部門の方で考えています。6月ごろの再設定を考えており、実行する2〜3週間前にはご連絡をする予定です。

○竹之内 未来（学内行事委員会）

学内行事委員会では先週はミーティングを行っていません。先々週は自己紹介を行いました。

来週は学類新歓の校閲の依頼が来ているのでミーティングを開く予定ですが、委員会内で確認したいことがあるので、メンバーは本会議の後少し残ってください。

○亀井 健多（教育環境委員会）

教育環境委員会では先週金曜日にミーティングを行いました。内容は顔合わせと、今後の予定の説明です。

今週の金曜日はテスト 1 週間前ですが、学長懇談会が控えていますので、その準備として開設授業科目一覧の配布形態に関するアンケートを調査委員会の方々と共に作成しようと考えています。

また、一般のチャンネルに教育生活環境調査を掲載したと思います。これからもこのようなアンケートが配布されていくので、学類への共有や回答の方をよろしくお願いいたします。

○宮田 青葉（生活環境委員会）

生活環境委員会では火曜日に初めてのミーティングを行い、現在進行中の仕事や活動内容についての説明を行いました。また新しい委員にやりたいことはないかという聞き取りも行いました。

また緊急で動いた案件としては「宿舎に宗教勧誘の広告がポスティングされている」という問題が発生しており、それにあたって学生生活課に早急にメールを送りました。

そしてペDESTリアンデッキの補修については昨年度から動いておりましたが、要望書の作成まで終わっておりますので、後は本会議に議題として提出しようと考えている次第です。

○會澤 颯太（調査委員会）

今週のミーティングでは図書館の利用に関するアンケートを行いました。来週は期末テストが迫っているため、ミーティングは無しにします。

また、教育生活環境調査を未配布の学類は配布をよろしくお願いいたします。

○篠崎 健太（広報委員会）

広報委員会では先週と今週にミーティングを行いました。宿舎祭で配布する Campus（全代会の広報誌）の特別号の編集・制作を行っています。

○菊田 一真（副議長）

国際特別委員会はミーティングを行い、ほぼ自己紹介で終わったと記憶しています。

○宮沢 純正（情報処理推進特別委員会）

IPC は、今年度中は新入生の歓迎を主眼に活動をしています。取り組むべき事業としては、先ほど菊田さんの演説にあった、課外活動団体・一般学生団体向けの情報処理プラットフォームの整備などがあります。また、それに向けて、上級生を中心に、プログラミング言語・開発環境などについてのレクチャーを行っています。

また、IPC の運営する UNTIL. についてのお知らせです。先ほどご紹介しました UNTIL.LT の第 2 弾、UNTIL.LT#0x02 が 6 月 1 日に行われます。ご興味のある方はぜひお越しください。その他、IPC、UNTIL. で実現していきたい事業はありますが、その詳細

について次回以降に発表ができるように準備を進めてまいります。

○川島 淳一郎（総務委員会）

内部連絡になりますが、総務委員会は明日ミーティングがあるので参加してください。

○河野 美羽（司会進行）

他に連絡がないようなので、令和 4 年度議長団よりお知らせをいたします。

全代会には監察役というものが定められております。

本日はいらっしゃらないのですが、令和 5 年度は昨年度副議長の山岸さんと、昨年度生活環境委員長を務めていらっしゃった成田さんを任命させていただいております。

この会議で令和 4 年度議長団としての仕事が最後ということで、皆様に最後の挨拶として述べさせていただきます。

会議に先立って、出欠フォームをご提出いただきありがとうございました。74 名の提出、とこれまでにないほど提出して頂きました。今後議長団が変わって出欠フォームがどのようになるかは分からないのですが、過半数の出席がないと本会議は流会となりますので、議長団としても、本会議の準備をする総務委員会としても事前に出席数の把握をする必要がありますので、フォームの提出をお願いしたいです。

○河野 美羽（司会進行）

ここからはこれ以降の本会議についての話になります。議長団選挙の際はギリギリでの告知となってしまいましたが、本会議は基本 1 カ月もしくは 3 週間前を目処に開催の連絡があるので、適宜よろしくお願いします。

また代理出席に関しても後ほど説明があると思いますが、欠席になる場合は可能な限り代理出席を出していただきたいです。よろしくお願いします。

○河野 美羽（司会進行）

この 1 年間は皆様に支えていただいていたばかりでした。今年度は総務委員会の事務局長として全代会自体には在籍をするので、皆さまを支える側に回っていきたいです。本当に一年間ありがとうございました。

○林 凛太郎（議長）

最後に今年度議長団の林から失礼します。次の第 2 回本会議を 6 月 14 日に開会しようと考えているので、皆さま予定の確保をよろしくお願いします。

また出欠フォームに関しても今後変更をする予定はないので、引き続き回答の方をよろしくお願いします。

この後、委員長は委員長連絡会があります。

また再三になりますが、教育生活環境調査を学類に未共有の方は共有をよろしくお願いします。

○河野 美羽（司会進行）

本日はこれにて散会します。

散会

以上、総務委員会 河野、鎌刈、浅野 作成